

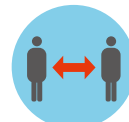
# やまなしの福祉

2022 No.367

冬

WINTER

- 〈P06〉 | 福祉職員のためのスキルアップ研修
- 〈P07〉 | 第70回 山梨県社会福祉大会
- 〈P08〉 | 令和4年度苦情解決事業研修会
- 〈P09〉 | 地域で安心して生活するために  
～日常生活自立支援事業～
- 〈P10〉 | 介護実習情報  
介護講座のご案内  
介護実習普及センターの事業について
- 〈P12〉 | 善意をありがとう ほか



Special  
特集  
feature

## コロナ禍の福祉施設の現場から

日常を守るため、してきたこと。これからのこと。

現場で働く人々の声



P03

児童施設の現場から  
「甲斐市立竜王西保育園  
子育て支援センター こあら」



P04

高齢者施設の現場から  
「社会福祉法人 恵信福祉会  
特別養護老人ホーム  
恵信ロジェ山梨」



P05

障害者施設の現場から  
「社会福祉法人 園樹会  
障害者支援施設 向徳舎」

# コロナ禍の福祉施設の現場から

From the field of welfare facilities in the Corona Disaster

日常を守るため、してきたこと。これからのこと。  
現場で働く人々の声

児童施設の現場から

「甲斐市立竜王西保育園  
子育て支援センター こあら」

新型コロナウイルスの感染拡大から約3年が過ぎようとしています。基本的な感染防止対策に加え、外出や会食の自粛などが求められる場面もあり、今まで当たり前だと思っていた日常が一変しました。

そんな中、福祉施設の現場で働く方々は、見えないウイルスと闘いながら、コロナ禍でも立ち止まることなくその使命を果たし、利用者さんやご家族の生活を支えています。

今号では、福祉施設の現場で働く3名の方々にインタビューを行い、コロナ禍の福祉施設の実情や、アフターコロナを見据えた展望、そしてコロナ対応を通してあらためて感じることができた福祉の仕事のやりがいと魅力をお聞きしました。

高齢者施設の現場から

「社会福祉法人 恵信福祉会  
特別養護老人ホーム  
恵信ロジェ山梨」

障害者施設の現場から

「社会福祉法人 園樹会  
障害者支援施設 向徳舎」



# 児童施設の現場

## 甲斐市立竜王西保育園 子育て支援センター こあら

保育士

あさかわ ゆか

浅川 裕加さん

保育士として13年、竜王西保育園では10年間、現場に携わる。産休・育休を経て、現在は園内の子育て支援センターに従事。本人もコロナ禍の中で妊娠・出産を経験した1歳の女の子の母親。



### Message

まだコロナは収束していませんが、感染対策をしながらみんなで乗り切りましょう。

**Q** コロナ前とコロナ後で、施設の仕事はどのように変わりましたか？また、利用者さんの生活はどのように変わりましたか？

コロナ前は、たくさんの利用者様に来ていただき、ご飯やおやつもみんなで食べ、子ども同士の関わりが多く、また保護者の方もお互い情報交換等をして交流の輪を広げていました。現在は密を避けるため、人数制限を設け予約制にし、子どもには消毒と検温、保護者の方にはマスク着用をお願いしています。活動は、個々でできる活動を多くし、材料や文具を使い回ししないように感染対策に努めています。

少人数制にしたことによって、ゆったりと安心できる場所になり、職員が利用者の方と、より丁寧に関わることができるようになってきました。

**Q** 施設の中で、コロナ特有の困りごとや悩みなどはありますか？（コロナ蔓延初期と現在とを比べて、変化などもあれば教えてください）

施設の利用は1ヶ月に2回までという制限をさせていただいています。そのため予約が殺到し、利用者様が利用できないことがあります。核家族化が進む中、大勢の人と関わってもらうこと、孤立させないことが支援センターの役割ですが、外出を控えることで、保護者の方が家庭内で悩みを抱え相談できる機会が減ってしまったと感じます。

また、支援センターは初対面の方が大勢いらっしゃいますが、マスクを着用しているため表情が読み取りにくいことがあり、コミュニケーションの面で難しいことがあります。

子どもも同様に、大人の表情を読み取ることで言語の発達につながったり、想像力を働かせることができますので、「育ち」や「成長」に影響が出ないか心配しています。ご家庭でも外に出かけてお友達や大人と触れる場が減ってしまったことで、社会で学べる経験が少なくなってしまうと感じています。

**Q** コロナ収束後、福祉施設を含む世の中の状況がどのようになったら良いと思いますか？

子ども同士の関わりや子育ての悩みを相談する場所が減ってしまっているのが、気軽に相談しあい、子ども同士で遊ばせられる施設がたくさんできて、子どもも保護者の方もリフレッシュできる場になっていけばいいと思います。子どもに限らず高齢者の方も含め、「支援」の場が、より増えることを希望します。

**Q** 福祉施設で働くことのやりがいや魅力を教えてください。また、これから福祉の仕事を目指す人たちに向けたメッセージをお願いします。

利用してくださった方が「楽しかった」「また来たい」などと言ってくれたときは嬉しいですし、子どもが職員を覚えて笑顔を見せてくれたときは、また仕事を頑張ろうと思います。子どもの成長を保護者の方と喜んだり共感できるのは魅力のひとつです。

福祉の仕事は、人との関わりを持てる貴重なやりがいのある仕事です。人と人との触れ合いでしか得ることができない「喜び」や「やりがい」を目的に、これから福祉の仕事を目指す方が増えてくれたら嬉しいですね。



1つの机を2人で使用したり、向かい合う班体制を中止し教室内で配置を工夫しました。

# 高齢者施設の現場

## 社会福祉法人 恵信福祉会 特別養護老人ホーム 恵信ロジェ山梨

生活相談員兼ケアマネジャー

やざき まさひろ

### 矢崎 雅大さん

同施設には立ち上げ当時より携わり、優良介護職員として表彰された経歴もある。現在、生活相談員兼ケアマネジャーとして従事。入社18年目を迎え施設を牽引する存在。

#### Message

入居者様を支える介護の仕事ですが、私たちが皆様に支えられている仕事だなと感じます。



**Q** コロナ前とコロナ後で、施設の仕事はどのように変わりましたか？また、利用者さんの生活はどのように変わりましたか？

職員が施設内に感染症を持ち込まないために、プライベートの行動に気を付けています。また、体調不良・同居家族の職場や学校の状況に合わせて休むことができるよう、急な休みに対して、職員一丸となって、フォロー体制を確保しました。徐々に規制が緩和されていますが、施設における感染対策や規制緩和は難しく、今後の取り組みも、ご家族の理解と協力を得ながら続けていきます。

入居者様の外出制限に関しては、暦にちなんだレクリエーションを考えたり、季節の花や写真を飾るなど、室内でも楽しく豊かに過ごせるようなサービスを行っています。

**Q** 施設の中で、コロナ特有の困りごとや悩みなどはありますか？（コロナ蔓延初期と現在とを比べて、変化などもあれば教えてください）

特に認知症の入居者様は、コロナに対する理解力や判断力が低下しているため、感染のリスクも高く、見えないウイルスを相手にする職員の負担も増大します。また、施設では地域との繋がりも欠かせないため、地域と関わる機会が減り、地域に潜む困りごとなど、情報収集がしづらくなった点が課題です。

入居者様に関しては、家族の面会や外出レク、ボランティアの訪問など、交流の機会が減り、社会との繋がりを持つことが難しくなりました。家族との面会は励みにな

るだけでなく、本人の状態を把握してもらう大切な機会でもあるため、定期的な連絡を心がけ、来訪時にはタブレットを利用し、本人と家族が窓越しで表情を見ながら対話できるよう工夫しました。

**Q** コロナ収束後、福祉施設を含む世の中の状況がどのようになったら良いと思いますか？

職員が集まる活動や好きなアーティストのライブ、旅行など、色々なことを制限しながら、自分達の社会生活を変化させて、施設内でコロナが蔓延しないように心がけています。現場の声を聞いていても、息抜きやストレス発散の場がない現在の状況は、職員にとって苦しいものがあります。安心安全に働ける職場環境が整備されれば、介護サービスの向上や働き手の確保にも繋がるため、これからも人や物への支援を継続してもらえるように願っています。

**Q** 福祉施設で働くことのやりがいや魅力を教えてください。また、これから福祉の仕事を目指す人たちにに向けたメッセージをお願いします。

大切にしているのは「仕事に加える思いやり」です。相手を感じる気持ちは、必ず入居者様にも伝わりますし、心が通い合う瞬間があるんです。そこから「ありがとう」や「よかった」という言葉が自然と生まれ、私たちの原動力になっています。

入居者様とのふれあいが自分の人間性を豊かにし、高い専門性を持つための志に繋がります。そうしたやりがいや魅力を、現場から発信できる人材を増やし、最高の介護が届けられる施設を目指して、仕事に向き合う姿勢や想いを後輩にも繋いでいきたいと思っています。



面会はタブレットを使用し施設の内外で会話します。施設内も距離を十分に保つよう配慮しています。



## 障害者施設の現場

### 社会福祉法人 園樹会 障害者支援施設 向徳舎

介護福祉士：社会福祉主事

ないとう こうが

### 内藤 公雅さん

整体師から福祉の世界に転身して11年目。現在、入所施設の男性棟主任として、総括、生活支援課長の補佐から利用者様の日常生活・日中活動支援や、利用者と関係者との連絡調整、会議、書類の作成・管理を行う。

#### Message

障害があることによる悩みや生きづらさを解消し、安心安全なより良い生活を実現するサポートをさせていただく仕事です。



**Q** コロナ前とコロナ後で、施設の仕事はどのように変わりましたか？また、利用者さんの生活はどのように変わりましたか？

入所施設ということで、職員が施設にウイルスを持ち込んでしまわないことを優先に、「持ち込まれても伝播しにくい環境」の整備をしました。体調管理（出勤前検温、体調確認等）や環境の整備（換気や消毒等）、支援体制の見直し（食事場所の変更や2部制、場面に応じた个人防护具の使用等）、BCP・マニュアルの作成等を行い、実際に感染者への対応が必要になった際、関係機関との連携の重要性を再確認いたしました。

利用者様には、帰省の延期や日課の変更をさせていただいたことで、今まであたり前だった日常の変化により、気持ちが落ち着かなくなったり、ストレスを感じる方が増えました。

**Q** 施設の中で、コロナ特有の困りごとや悩みなどはありますか？（コロナ蔓延初期と現在とを比べて、変化などもあれば教えてください）

高齢化が進んでいるため、活動量の減少や隔離制限の対応から機能低下が著しく見られること。感染者が出た場合、ゾーニング（区分け）を実施していますが、利用者様の特性上、隔離が難しい方も多いため、集団感染を防ぐことが難しいこと。感染した際に、病院等で受け入れができないことなど課題があります。

利用者様から「いつコロナは終息するのか？」という質問をされても明確な返答ができず、利用者様が見通しが持てない等、対応に困った場面もありました。

**Q** コロナ収束後、福祉施設を含む世の中の状況がどのようになったら良いと思いますか？

一番は利用者様に今まで規制されていたイベント（旅行）や帰省を十分に満喫してもらうことで、ストレスの緩和や心身ともに気分転換を図ってほしいと思っています。

利用者様の特性上、感染防止に限界があるため、ワクチンの開発が進むことで現在のような規制が緩和され、障害がある方でも地域で生活していける体制の整備を行ってほしいと思います。仮にコロナが収束しても、今後どのようなウイルスが蔓延するか分からないことやアフターコロナ・ポストコロナ社会における課題を事前に整理し、備えておくことが重要だと思います。

**Q** 福祉施設で働くことのやりがいや魅力を教えてください。また、これから福祉の仕事を目指す人たちに向けたメッセージをお願いします。

福祉職は社会貢献度が高く、人の役に立っていることを実感しやすい仕事だと思う一方、支援には正解がないので日頃から多くの苦難があります。それでも難しい支援内容を達成できたときや、利用者様の成長が感じられたときには、やりがいのほかに自分自身の成長に繋がっていると感じます。また、利用者様本人やご家族、関係者からの、笑顔や何気ない一言、感謝の言葉に救われることが多く、自分の仕事を利用者様のためになっていることを実感でき、日々の活力に繋がります。

ここまでやりがいを感じる事ができ、充実した楽しい仕事はないと思うので、少しでも多くの方が福祉の仕事に興味を持ち、福祉施設で働く人が増えることを願っています。



食事は、男性棟、女性棟で時間を分けたり、入所と近隣のグループホームの利用者さんとも食堂のスペースを隔てたり工夫します。

# 福祉職員のための スキルアップ研修

開催しています

福祉人材研修課では、社会福祉施設及び団体に勤務する職員を対象に、職務を遂行する上での必要な知識や技術を学ぶ研修会を年間通じて開催しています。ここでは、実施している研修の一部を紹介します。



## 01 介護現場における リスクマネジメント研修

令和4年10月7日(金)  
13時30分～16時30分  
会場:山梨県福祉プラザ4階大ホール



### 内容

- 1 事故防止(医療安全対策)の大前提の考え方
- 2 医療安全の考え方の変遷
- 3 安全とは
- 4 事故防止の考え方
- 5 インシデント報告の考え方
- 6 クライシスマネジメント
- 7 安全が文化になるとは
- 8 インシデント・アクシデント事例の分析

講師:健康科学大学看護学部看護学科  
教授 小林 美雪さん



### 受講者の声

voice

01

職場での安全文化をつくっていくために、報告をあげてくれた時には「大変だったね」「報告してくれてありがとう」とまづ伝えていきたいです。

voice

02

時系列で問題を考え整理する「時系列事象関連図」を現場に取り入れていきたいと思えます。

voice

03

今日は、あらためて「それ大事!」と思うことがいくつかありました。それを持ち帰り、施設の職員にこの知識を広めたいと思います。

## 02 アンガーマネジメント研修 ～ひとりで怒り感情を抱え込まないために～

令和4年10月21日(金)  
13時30分～16時30分  
会場:山梨県福祉プラザ4階大ホール  
オンライン(Zoom)



### 内容

- 1 なぜアンガーマネジメントを学ぶのか
- 2 介護職員等における虐待発生の状況
- 3 福祉現場における怒りの要因
- 4 アンガーマネジメントによる怒りの対処方法
- 5 怒りを増幅させないための環境づくり
- 6 職場で取り組むアンガーマネジメント

講師:健康科学大学健康科学部  
人間コミュニケーション学科(福祉心理学科)



准教授  
梅沢 佳裕さん

### 受講者の声

voice

01

介護職はストレスをためやすい職種なので、一人で悩まないような環境を作りたいです。

voice

02

私たちが怒らせるものの正体である自分の中の「べき」を理解する事の大切さを学びました。

voice

03

相談体制をもう一度見直し、大変さを共有できるようにしていきたい。

令和5年1月以降に開催予定の研修情報は、本会研修申込ページをチェック!

### 開催予定 研修一覧

- ・動画で伝える福祉職場の魅力発信研修
- ・外国人介護従事者受入セミナー
- ・介護職員対象腰痛予防研修

### 問い合わせ

福祉人材研修課 介護・保育貸付 / 研修担当  
TEL:055-254-9955



研修申込  
ページへの  
QRコードは  
こちら





# 山梨県社会福祉大会

令和4年10月27日(木)、山梨県立文学館講堂で「第70回 山梨県社会福祉大会」を開催しました。  
この大会は、本県の社会福祉の発展に功績のあった個人・団体等を表彰し、感謝の意を表することを目的に、年に一度開催しています。

今回も、前回大会と同様、新型コロナウイルス感染拡大防止のため規模を縮小して参加者を限定し、十分な感染対策をとったうえで、表彰式典を執り行いました。



山梨県社会福祉協議会 高野孫左エ門会長による主催者挨拶



それぞれの立場で社会福祉に尽力された方々へ、県知事表彰の贈呈、県社協会長表彰・感謝状の贈呈、中央共同募金会会長感謝楯・感謝状の伝達表彰が行われ、受賞者を代表して一瀬 富美子さん(知事表彰：民生委員・児童委員)が「今後も感謝の気持ちを忘れず、さらに地域福祉の向上に努めていきたい」と謝辞を述べられました。

受賞者の皆様、おめでとうございます。



一瀬 富美子さんによる謝辞

## 県社協会長表彰・感謝状の受賞者

表彰区分		受賞者・団体数
表彰状 176名 9団体 (計185)	民生委員・児童委員	97名
	民間社会福祉施設役職員	41名
	民間社会福祉団体役職員	27名
	優良社会福祉協議会	1団体
	ボランティア活動功労(個人)	11名
	ボランティア活動功労(団体)	8団体
感謝状 7名 9団体 (計16)	公立社会福祉施設職員	1名
	金品寄付・労力提供(個人)	5名
	金品寄付・労力提供(団体)	6団体
	特別感謝状(個人・団体)	(個人)1名、(団体)3団体

県知事表彰は(個人)32名、(団体)1団体へ贈呈され、中央共同募金会会長感謝楯・感謝状は(個人)1名、(団体)2団体への伝達表彰が行われました。受賞された皆様の日頃からのご尽力に深く感謝申し上げます。



# 苦情解決事業研修会

山梨県福祉サービス運営適正化委員会では、8月24日(水)・8月30日(火)・9月26日(月)の3日間県内の福祉サービス事業者および第三者委員会委員を対象に、苦情解決の仕組みを学ぶ機会を提供し、福祉サービス事業者の適切、かつ円滑な苦情解決を支援する目的で苦情解決事業研修会を開催しました。



## 8月24日

児童施設を対象とし、山梨学院短期大学の樋川隆先生を講師に迎え「子どもの危機管理」と題した講義をしていただきました。



## 8月30日

障害者施設を対象とし、山梨県立大学の柳田正明先生を講師に迎え「障害福祉領域での苦情対応と事故対応—自治体による事業評価やメディアに見られた虐待等の事例から—」と題した講義をしていただきました。

## 9月26日

高齢者施設及び市町村社協を対象とし、福祉サービス運営適正化委員会委員の山崎百子氏を講師に迎え「苦情対応の実際 その4 高齢精神障害者の金銭トラブル」と題した講義をしていただきました。

### 受講者の声



苦情対応に対するポイントや対人援助に必要な技術など分かりやすく説明いただいて参考になった



研修を受けて改めて苦情対応の難しさ大変さを実感した



事例に対して他の参加者の意見を聞くことができ参考になった

等の感想をいただきました。

今後も、福祉サービス事業所の更なる質の向上を図るため、研修会を開催する予定です。皆さんのご参加をお待ちしております。



ご利用している福祉サービスについて

「こうしてほしい」と思っていないませんか？

「なおしてほしい」と望んでいませんか？

山梨県福祉サービス運営適正化委員会が  
疑問・要望などのご相談に応じます。

### 山梨県福祉サービス運営適正化委員会

住所 甲府市北新1-2-12 県福祉プラザ4階  
受付時間 平日 午前8時30分～午後5時15分  
電話 **055-220-3030**





地域で安心して生活するために



# 日常生活 自立支援事業



Daily life support business

障害のある方やご高齢の方が、住みなれた地域で安心して生活が送れるように、福祉サービスを利用するための相談や、お金の管理などのお手伝い(援助)をし、自立生活を支援します。

## 対象となる方

認知症の高齢者、知的障害者、精神障害者等で判断能力が十分でないため、福祉サービスの利用や、日常的な金銭管理などがうまくできない方々が対象になります。

※判断能力を欠いているため契約ができない方は、成年後見制度の利用対象となります。



## 援助内容について

### ①福祉サービスの利用援助

- ・福祉サービスの利用に関する情報の提供、相談
- ・福祉サービスの利用における手続きの援助、申し込み同行
- ・日常生活に必要な事務手続き援助  
(住民票の届出などの行政手続き、貸借・消費契約)
- ・定期的な訪問、相談

### ②日常的金銭管理サービス

- ・一定額の預金の出し入れ、預金の解約手続き
- ・福祉サービス利用料金の支払い、医療費の支払い
- ・日用品の代金の支払い、公共料金などの支払い

### ③書類等の預かりサービス

- ・通帳や印鑑、年金証書などの書類の保管

## 利用料金

福祉サービス利用援助・ 日常的な金銭管理サービス	1時間以内1,000円 ※1時間を超えた場合、 15分ごとに250円を加算
援助に対する交通費	1km当たり20円 ※1km未満は切り捨て
書類等預かりサービス (保管料)	月額300円 ※金融機関の貸金庫を利用して 保管する場合は、実費相当分 を追加する。

※停止中を除く生活保護世帯は無料です。

## 利用するには

お住まいの市町村の社会福祉協議会にご相談ください。  
相談は無料です。



相談



面談・調査・支援計画作成



契約・支援

専門員が利用を希望する本人と面談・調査などを行い、その方の希望と状況に応じた支援計画を作成します。援助を行うことが合意されれば、利用契約を結びます。契約は原則的に本人と社会福祉協議会が行います。本人の契約能力の確認が難しい場合は、山梨県社会福祉協議会が設置している「契約締結審査会」で審査することもあります。

受講料無料

# 介護実習情報

Nursing Practice Information



## 介護講座(2月)のご案内

対象者:高齢者介護をしているご家族や介護に関心のある方など、どなたでも受講できます。  
会場:山梨県福祉プラザ1階 介護実習普及センター介護実習室・調理実習室

### 福祉用具を体験する講座

福祉用具展示室 見学・体験ツアー

定員 / 30名

開催予定日 / 2月16日(木)

時間 / 13:30~15:00



### 調理実習を通して学ぶ“介護食”講座

お年寄りの食事の特徴と調理の実際

開催予定日 / 2月3日(金) 時間 / 9:30~14:30 定員 / 8名

お年寄りにやさしい献立作り・栄養を補う副菜の調理

開催予定日 / 2月10日(金) 時間 / 9:30~14:30 定員 / 8名

飲み込みの障がいに合わせて調理方法・トロミの付け方

開催予定日 / 2月21日(火) 時間 / 9:30~14:30 定員 / 8名

### 認知症について学ぶ講座

認知症サポーター養成講座

開催予定日 / 2月15日(水)

時間 / 13:00~15:00 定員 / 30名

認知症介護の経験者のはなし

~認知症を持つ家族を介護して~

開催予定日 / 2月28日(火)

時間 / 10:00~12:30 定員 / 30名

問い合わせ・お申し込み先

介護実習普及センター TEL 055-254-8680

ホームページからお申し込みできます。



◎各講座とも、新型コロナウイルス感染症の影響等により中止にさせていただく場合があります。その場合はホームページやフェイスブック、インスタグラムでお知らせするとともに、受講申込者に連絡します。受講希望の方には大変ご不便をおかけしますが、皆様の安全確保と感染拡大防止を考慮した対応ですので、ご理解をお願いします。

## 介護実習普及センターの事業についてご報告

介護実習普及センターでは、県民を対象に様々な講座を開催しています。今回はその中から、2講座を報告します。

### 「福祉用具体験講座」

9月18日(日)、甲府市民会議育成部ジュニアリーダー会の皆さんが受講しました。講座では、福祉用具や介護ロボットなどについての説明をしたあと、手に取って体験してもらいました。その後、足先まで手を伸ばすことが出来ない・前かがみの姿勢が取れない方をサポートする自助具「ソックスエイド」や、手指に障害がある人がシャツなどのボタンを留めるために使用する「ボタンエイド」を作りました。なお、これらは100円ショップで購入できる素材で簡単にできます。



#### 参加者の感想

- 福祉用具を使う人にとって、誰かの助けを借りずに自分の力で生活することはとても嬉しいことなんだなと思った。
- ボタンエイド、ソックスエイドは簡単に作ることが出来たし、材料も100円ショップで買えるものだったので良かったです。
- 介護ロボットは、介護現場の大きな助けになると思うので、もっと手軽に使用できる環境になればいいなと思った。

### 「認知症地域公開講座in市川三郷町」

10月9日(日)、認知症の知識の普及を図るため、市川三郷町を会場に開催しました。講師に、仙台市で悩みの相談に認知症当事者が応じる「おれんじドア」代表の丹野智文氏と山梨県立大学 看護実践開発研究センター認知症看護認定看護師教育課程の主任教員で認知症カフェの運営にも携わっている狩野英美氏をお迎えし、講演いただきました。



#### こんな内容を学びました

##### 01 「認知症と共に生きる」

丹野さんは39歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断されました。その時の状況や心境、認知症と診断後、不安になった時に認知症当事者の方と出会い、前向きになったこと、認知症当事者にとって周りの環境がとても大切だということなどをお話いただきました。

##### 02 「認知症の方を地域で支えるためのヒント」

狩野さんからは、認知症の基礎知識や認知症の危険因子について、また認知症の状態にある人を支えるためのポイントについてを自身の体験を踏まえてお話いただきました。

#### 参加者の感想

- 当事者の実体験が聞く事ができ、生の声がとても勉強になった。
- 認知症の方の視点に立って考えて行動したいと思った。
- 本人のやりたい気持ちを聞きながら、生活を続けていけるように家族や、地域で支えてあげられると、元気でその人らしく暮らしていけるのではないかと考えた。



日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

# ボランティア活動保険



**保険金額・年間保険料（1名あたり）** 団体割引20%適用済／過去の損害率による割増引適用

プラン		基本プラン	天災・地震補償プラン	[新設]特定感染症重点プラン	
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円			
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)			
	入院保険金日額	6,500円			
	手術保険金	入院中の手術	65,000円		
		外来の手術	32,500円		
	通院保険金日額	4,000円			
	特定感染症	補償開始日から10日以内は補償対象外(*)	初日から補償		
地震・噴火・津波による死傷	×	○	○		
賠償責任の補償	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)			
年間保険料		350円	500円	550円	

商品パンフレットは  
**コチラ**



(ふくしの保険  
ホームページ)

\*4月1日付で前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

## <基本プランに加入される方へ>

基本プランでは、地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。

◆**年度途中でボランティア活動保険に加入する場合には「特定感染症重点プラン」への加入をおすすめします。**  
例えば、被災地での災害ボランティア活動や当初予定していなかったボランティア活動への参加にあたり、新型コロナウイルス感染症をはじめとした特定感染症への備えとして、特定感染症重点プランに加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

**ボランティア行事用保険** (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

**送迎サービス補償** (傷害保険)

**福祉サービス総合補償**  
(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課  
〈保険会社〉

TEL:03(3349)5137

受付時間：平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL:03(3581)4667

受付時間：平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

# NEWS

善意をありがとう Thank you for your good will.

## 株式会社ダイナム様 日用品のご寄付

株式会社ダイナム山梨笛吹、山梨南アルプス、山梨韮崎の3店舗より、マスクや石けん、トイレットペーパーなど沢山の寄贈を頂きました。

お預かりした寄贈品は福祉施設で活用いただきます。

たくさんの善意をありがとうございました。



## 赤い羽根共同募金「街頭募金活動」

募金のご協力ありがとうございました。



11月7・8・9日の3日間、山梨県社会福祉協議会は、赤い羽根共同募金「街頭募金活動」を行いました。

期間中は、延べ41団体・68名の方々にご協力をいただき、**81,952円**の募金が集まりました。

ご協力いただきました募金は、山梨県共同募金会から配分され、様々な福祉活動や災害時の支援に役立てられます。

本会ホームページにも活動の様子が掲載されています。

### 読者アンケートのお願い

今後の広報誌づくりの参考にさせていただくため、アンケートにご協力をお願いいたします。

QRコードよりご回答ください。



広報誌「やまなしの福祉」は、本会ホームページでPDF版をご覧いただけます。バックナンバーの閲覧もできますので、ぜひご活用ください。

<http://www.y-fukushi.or.jp>

ここからチェック!!



### お知らせ

Notice

今年度より、やまなしの福祉は年4回の発行とさせていただきます。次号は3月末発行予定です。

この広報誌の作成費用の一部に赤い羽根共同募金配分金を充てています。

